

埼玉県師範学校規則

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

揭示

郵稅拂濟

甲第五拾四號

明治十二年^{十二}月^{十二} 本縣甲第百五十一號布達小學師範學校規則自今別冊
之通改定候條此旨布達候事

明治十五年四月十日

埼玉縣令 吉田清英

學

埼玉縣師範學校規則

第一章

通則

第一條 師範學校ハ小學校ノ教員タルニ必須ノ學科ヲ授クル所ナリ

第二條 師範學科ヲ分テ初等中等高等トス

第三條 初等師範學科ハ修身讀書習字算術地理物理教育學學校管理法實地授業及唱歌體操トス

但唱歌ハ授業法ノ整フヲ待テ之ヲ設ク以下之ニ倣フ

第四條 中等師範學科ハ修身讀書習字算術地理歷史圖畫生理博物物理化學幾何記簿教育學學校管理法實地授業及唱歌體操トス

第五條 高等師範學科ハ修身讀書習字算術地理歷史圖畫生理博物物理化學幾何代數經濟記簿本邦法令心理教育學學校管理法實地授業及唱歌體操トス

第六條 師範學校ノ生徒ヲ分テ公費生自費生ノ二種トス

第七條 師範學校ノ生徒タル者ハ品行端正體質強健年齡十七年以上ニシテ小學校中等科卒業以上ノ者及入學試格ニ合フ者ニ限ル

但小學校中等科卒業ノ者ハ初等師範學科第二級ニ小學校高等科卒業ノ者ハ中學師範學科第三級ニ初等中等科卒業ノ者ハ高等師範學科第二級ニ入ルコトヲ得

第八條 初等師範學科卒業ノ者ハ小學校初等科中等師範學科卒業ノ者ハ小學校初等科及中等科高等師範學科卒業ノ者ハ小學校各等科ノ教員タルコトヲ得

第九條 初等若クハ中等若クハ高等師範學科ヲ卒業セシ者ハ其在學セシ年數ト等シク各本縣小學校ノ教員ニ從事スヘシ

但自費生ハ在學セシ年數ノ二分一トス

第十條 師範學科卒業ノ者ニハ其學習セシ所ニ隨ヒ初等若クハ中等若クハ高等師範學科ノ卒業證書ヲ與フヘシ

第十一條 師範學校ニ入學セサル者ト雖卒業證書ヲ請フトキハ品行檢定ノ上別ニ定ムル所ノ規則ニ據リ其學力ヲ試験シ合格ノ者ニハ卒業證書ヲ與フヘシ

第十二條 師範學科卒業證書ハ滿七年間其効ヲ有スル者トス
但證書授與ノ月ヨリ起算スヘシ

第十三條 師範學科卒業ノ者滿七年ノ後卒業證書ヲ請フトキハ更ニ第十一條ノ手續ヲ經テ之ヲ與フヘシ

第十四條 高等若クハ中等師範學科卒業證書ヲ有スル者ニシテ滿七年以上小學校教員ノ職ニ從事シ學力優等授業熟練品行端正ノ證據アル者ニハ縣令認定ノ上試験ヲ須ヒス書式第六ニ據リ終身有効ノ卒業證書ヲ與フヘシ

第十五條 師範學科卒業證書ヲ有スル者ニシテ町村立學校教員任免規則第四條ノ一款若クハ數款ニ抵觸シタルトキハ其卒業證書ヲ沒收スヘシ

第二章 入學及限學

第十六條 師範學校生徒ノ入學ハ兩學期ノ初トシ若シ欠員アルトキハ臨時ニ之ヲ募集ス

第十七條 入學セント欲スル者ハ卷末ニ記載スル書式第一第二第三ニ據リ師範學校ニ申出ツヘシ

第十八條 入學ヲ請フ者ハ小學校中等科以上ヲ卒業セシ者ノ外左ノ學科ヲ試ミ合格ノ者ハ之ヲ許スヘシ

但初等師範學科入學ノ者ハ第七項マテ中等師範學科第三級ニ入學ノ者ハ第十一項マテ高等師範學科第四級ニ入學ノ者ハ全項ヲ試験スル者トス

- 一 修身 格言及事實
- 二 讀書 和文及漢文
- 三 作文 書牘及假名交リ文(高等ニハ漢文ヲ加フ)

- 四 習字 楷行草
- 五 算術 比例マテ(中等及高等ハ級數求積マテ)
- 六 地理 日本及萬國
- 七 歷史 日本
- 八 圖畫 器具花葉家屋草木禽獸等
- 九 博物 動物植物金石
- 十 物理 物性重力水氣熱音光電氣磁氣等
- 十一 化學 非金屬金屬
- 十二 生理 骨骼筋肉皮膚飲食ノ消化血液ノ循環呼吸感覺等
- 十三 幾何 線角面及體ノ性質等

十四 代數 整數分數ノ四術

十五 經濟 生財配財及交易等

第十九條 入學許可ヲ得タル者ハ卷末ニ記載スル書式第四ニ擔リ保證狀ヲ出スヘシ

第二十條 生徒入學ノ後品行不正ニシテ町村立學校教員任免規則第四條ノ一欸若クハ數欸ニ抵觸スルカ又ハ數々校則ヲ犯ス者ハ退學セシムヘシ

第廿一條 生徒疾病ニ罹ルカ若クハ己ムヲ得サル事故アリテ退學ヲ請ム者ハ之ヲ許ス

第廿二條 公費生ニシテ第二十條及第廿一條ノ場合ニ當ルトキハ在

學中ノ學資ヲ償還セシム

第廿二條 生徒卒業ノ目的ナシト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スルコトアルヘシ

但此場合ニ於テハ學資ヲ棄捐スル者トス

第三章 學年及休業

第廿四條 學年ハ八月廿一日ニ始リ翌年七月二十日ニ終ル

第廿五條 學年ヲ二學期ニ分チ第一ヲ八月廿一日ヨリ翌年二月十五日トシ第二ヲ二月十六日ヨリ七月二十日トス

第廿六條 年中ノ休日左ノ如シ

- 一 孝明天皇祭 一月三十日

- 一 紀元節 二月十一日
- 一 春季皇靈祭 春分日
- 一 神武天皇祭 四月三日
- 一 秋季皇靈祭 秋分日
- 一 神嘗祭 十月十七日
- 一 天長節 十一月三日
- 一 新嘗祭 十一月廿三日
- 一 夏季休業 七月廿一日ヨリ
八月廿日ニ至ル
- 一 冬季休業 十二月廿六日ヨリ
翌年一月七日ニ至ル
- 一 日曜日全日土曜日午後

一 定期試験後三日間

右ノ外臨時休業ハ其時々學校ニ揭示スヘシ

第四章 教 則

第廿七條 師範學校ノ修業年限ハ初等師範學科ヲ一ケ年中等師範學科ヲ二ケ年半高等師範學科ヲ四ケ年トス

第廿八條 師範學校ノ等級ハ初等師範學科ヲ二級ニ分チ中等師範學科ヲ五級ニ分チ高等師範學科ヲ八級ニ分チ每級一學期ノ修業ト定ム

第廿九條 師範學校ノ授業ハ一週ニ二十八時一年ニ三十六週トス

第三十條 體操ノ科ハ課業ノ前若クハ後ニ於テ之ヲ演セシム其時間

ハ凡三十分トス

第五章

試験及卒業

第三十一條 試験ヲ分テ小試験定期試験卒業試験トス

第三十二條 小試験ハ一學期中凡ソ二回トス

第三十三條 定期試験ハ學期ノ終リニ於テ其學期中授ケシ所ノ課業ヲ試験シ合格ノ者ハ昇級セシム

第三十四條 生徒ノ等級ハ定期試験ニ於テ之ヲ判定スト雖平常授業ノ際優劣特ニ瞭然ナル者ハ學校長ノ意見ヲ以テ等級ヲ昇降セシムルコトアルヘシ

第三十五條 卒業試験ハ初等若クハ中等若クハ高等師範學科ヲ卒業

タル後各學科ニ就テ之ヲ試験シ合格ノ者ニハ卷末ニ記載スル書式

第二ニ據リ學校長ヨリ卒業證書ヲ與フヘシ

第三十六條 小試験ノ評點ハ定期試験ノ參考ニ供スヘシ

第三十七條 試験評點ハ一科最上等ヲ百點トシ學科ノ數ヲ以テ其總和ヲ除シ之ヲ成點即平均點トス

但修身科ハ平素ノ行狀點ヲ加フル者トス

第三十八條 試験評點ヲ以テ及第落第ヲ判スルコト左ノ如シ

各學科 平均點	一科 最下點	小試験 各學科 平均點	
六十點以上	五十點以上		及第
同	四十以上	五十點以上	及第

同	三十點以上	同	及第
五十點以上	廿九點以下	六十點以上	落第
		<small>但一學期中欠業四週日ニ滿ツル者ハ</small>	
		<small>但一科ノ點數廿九點以下ナリトモ其科ノ小試験平均六十點以上ナルトキハ</small>	
		及第	

第六章 生徒費用

第三十九條 公費生ハ學資トシテ一ヶ月金四圓五拾錢ヲ給スヘシ

第四十條 學資ハ日ヲ計ヘテ之ヲ給ス若シ疾病事故等ニ依リテ歸郷又ハ下宿スル者ハ其當日ヨリ之ヲ止ム

但傳染病又ハ重病ノ爲メ下宿或ハ病院ニ入ルコトヲ指示スル者ハ四週間迄ハ之ヲ給ス

第四十一條 冬夏季休業中歸郷又ハ下宿セサルモ學資ハ其當日ヨリ之ヲ止ムヘシ

第四十二條 學資金ハ食料其他ヲ引去リテ翌月上旬學校事務掛ヨリ之ニ渡スヘシ

第四十三條 生徒課業用ノ圖書器械ハ第七章ノ諸則ニ據リ借用ヲ許スヘシト雖代價金五拾錢以下ノ物品ハ自辨タルヘシ

第四十四條 自費生ニシテ入寮スル者ハ其月ノ末日マテニ食料其他ノ費用ヲ學校事務掛ニ納ムヘシ

第七章 圖書器械

第四十五條 生徒課業用ノ圖書器械ハ其品類ニ因リ借用スルコトヲ許ス

但同時ニ二部以上ヲ併借スルコトヲ得ス

第四十六條 圖書器械ヲ借用セント欲スル者ハ證憑ヲ製シ其科擔當

教員ノ檢印ヲ受ケ之ヲ學校事務掛ニ出スヘシ

第四十七條 課業用ノ外各自ニ研究セント欲スル圖書器械ハ其品類

ニ因リ借用スルコトヲ許ス

第四十八條 圖書器械ノ出納ハ休日ヲ除クノ外毎日正午十二時ヨリ

午後一時マテトス

第四十九條 都テ貸付スル所ノ圖書器械ハ冬夏季休業前悉ク返納セ

シトス

第五十條 圖書器械ヲ紛失シ或ハ之ヲ毀損スルトキハ現品又ハ相當

ノ代價ヲ償ハシム

第八章 寮則

第五十一條 行狀言語ヲ慎ミ信義ヲ以テ相交リ總テ寮監ノ指示ニ從

フヘシ

第五十二條 晨起就寢喫飯外出等ノ時限ハ時々掲出スヘシ

第五十三條 晨起後直ニ衾褥ヲ收メ舍内ヲ掃除シ衣服ヲ改メ盥漱ス

ヘシ

第五十四條 就寢ノ時ニ至テハ直ニ燈火ヲ減スヘシ

第五十五號 漫リニ他室ニ往來シ又ハ點燈ノ後朗讀スヘカラス

第五十六條 金錢衣服等ヲ貸借スヘカラス

第五十七條 外人ノ面會ハ必應接所ニ於テスヘシ

第五十八條 病氣ニテ欠課スル者ハ書面ヲ以テ其旨ヲ寮監ニ届出ツ
ヘシ

第五十九條 病氣ニテ欠課シタル當日ハ外出ヲ許サス

但醫師ノ診斷ニヨリ適宜散歩ヲ要スル者ハ此限ニ在ラス

第六十條 病氣ノ者ハ醫師ノ診察ヲ受ケシメ病症ノ輕重ニヨリ或ハ
病院ニ入ラシメ或ハ下宿療養セシム

第六十一條 散歩時間ハ毎日放課時間後ヨリ日没マテトス

第六十二條 休日ハ晨起ヨリ日没マテ外出隨意タルヘシ

第六十三條 外出スルトキハ寮監ニ届ケ名札ヲ裏返シ歸寮ノ時亦表
面ニ復スヘシ

第六十四條 臨時外出ヲ請フ者ハ寮監ニ陳述シ許可ヲ受ケ其事由及
姓名ヲ不時外出簿ニ自記スヘシ

第六十五條 門限後ニ非レハ歸寮シ難キ事故アルトキハ豫メ許可ヲ
受ケ歸寮シタルトキハ往先ノ住所事由及時間等ヲ記シタル證書ヲ
持參スヘシ

第六十六條 外出中發病ニヨリテ歸寮シ難キトキハ醫師ノ診斷書ヲ
添へ即時届出ツヘシ

第六十七條 一切外宿ヲ爲スヘカラス

第六十八條 冬夏季休業中退寮スル者ハ開業前日マテニ歸寮スヘシ

第六十九條 歸省若クハ下宿ノ後更ニ歸寮スルカ又ハ新ニ入寮スル

者ハ書面ヲ以テ寮監ニ届出ツヘシ

第七十條 至親ノ病氣ニヨリ看護ノ爲メ歸省セント欲スル者ハ其旨

願出ツヘシ

第九章 職制

學校長

- 一 本校所屬ノ職員ヲ統轄シ生徒ヲ教養シ其勤惰ヲ監督ス
- 二 事務章程ニ據リ校中ノ庶務ヲ綜理ス
- 三 小學校教員志願者ノ試験ヲ執行ス
- 四 本校主管ノ事務ハ總テ其責ニ任ス

監事

一 學校長ヲ輔ケテ校中ノ事務ヲ處辨ス

二 圖書器械及諸帳簿ヲ整理ス

三 學校長欠員若クハ不在ノトキハ其職掌ヲ代理ス

教長

一 學校長ヲ輔ケ教諭助教諭ヲ指揮シ教授法及試験法ヲ整理ス

教諭助教諭

一 學校長ト教長ノ指揮ニ依リテ生徒ノ教授及試験ヲ掌ル

寮監

一 學校長ノ指揮ヲ受ケ監事ヲ輔ケテ在寮生徒ヲ監督ス

事務掛

一 學校長ノ指揮ヲ受ケ監事ヲ輔ケテ校中ノ雜務ヲ查辦ス

第十章 事務章程

師範學校管掌ノ事務縣廳ニ稟議スヘキ者ト專決施行スヘキ者トヲ分テ上下二款ト爲ス其曰左ノ如シ

上款

- 一 校則教則及授業法等ノ諸規則ヲ釐革スル事
- 二 職員ヲ進退スル事
- 三 職員ヲ派遣スル事
- 四 生徒ヲ募集スル事
- 五 附屬小學ヲ廢置スル事

六 書籍ヲ印行スル事

七 校舍ヲ營築スル事

八 校舍ヲ貸渡スル事

九 參考用圖書器械ヲ購求スル事

十 經費小科目以上ノ流用ヲ爲ス事

十一 經費外ノ金ヲ以テ事ヲ爲ス事

以上縣廳ニ稟議シ許可ヲ得テ後施行スヘシ

下款

一 成規アル校務ヲ處辨スル事

二 附屬小學生徒ヲ増減スル事

- 三 生徒ヲ試験シ証書ヲ授與スル事
 - 四 生徒ヲ黜陟スル事
 - 五 僕役ヲ増減スル事
 - 六 教科用圖書器ヲ購求スル事
 - 七 經費小科目以內ノ金ヲ以テ校費ヲ支辨スル事
- 以上專決施行シテ後縣廳ニ開申スヘシ

(書式第一)用紙半紙ニツ折
正副二通

願書

私儀教員志願ニ付公費(或ハ自費)ヲ以テ^初中等師範學科ニ入學相願候
就テハ諸御規則固ク相守リ^高勉勵可致候條御試験ノ上御許可被下度候

也

埼玉縣何郡何村何番地

士族(或ハ平民)

何誰子弟^{本人戸主ナレハ之ヲ除ク}

明治 年 月 日

姓 名 印

年 齡

埼玉縣師範學校

御 中

(書式第二)用紙半紙ニツ折一通

履 歷

士族(或ハ平民)

何誰子弟 本人戸主ナレハ之ヲ除ク

一生所何府何郡何町何縣何區何村

姓名

年 齡

一宿所埼玉縣何郡何村何番地住居(寄留)

一何年何月何所何誰ニ就キ(或ハ何地何學校ニ於テ)何學科修業等

ノ履歷ヲ詳細ニ記載スヘシ

(書式第三)用紙証券界紙一通

品行證書

埼玉縣何郡何村何番地

士族(或ハ平民)

何誰子弟 本人戸主ナレハ之ヲ除ク

姓名

年 齡

右之者從來町村立學校教員任免規則第四條ノ名款ニ抵觸セシ廉決シテ無之候依テ證書差出候也

埼玉縣何郡何村居住(寄留)

士族(或ハ平民)

親戚(或ハ朋友)

明治 年 月 日

姓名 印

何郡何學區

學務委員

姓名印

埼玉縣師範學校

初 中

(書式第四)用紙証券界紙一通

保證狀

埼玉縣何郡何町何番地

士族(或ハ平民)

何誰子弟 本人戸主ナレハ之ヲ除ク

姓名

年齡

右之者教員志願ニ付御試験ノ上公費(自費)ヲ以テ入學御許可相成候就テハ在學中一切ノ事件ハ私引請可申且卒業ノ上ハ本縣師範學校規則第一章第九條ニヨリ小學校教員ニ從事可爲致候依テ保證狀差出候也

埼玉縣何郡何町何番地

士族(或ハ平民)

明治 年 月 日 保證人 姓名 印

埼玉縣師範學校

御中

右之通相違無之依ヲ與書仕候也

何郡何學區

學務委員

姓名印